

2014年3月6日

報道関係各位

株式会社ワイ・ディ・シー

EDI 業務トラブルを防止しコスト削減に貢献 運用監視ツールを発表

株式会社ワイ・ディ・シー（本社：東京都府中市、代表取締役社長 三奈木 輝良、以下 YDC）は、本日、EDI（電子データ交換）取引における運用トラブルを防止し、業務の信頼性向上と効率化に貢献する EDI 業務運用監視ツール「VIGIE（ヴィジエ）」を発表、本格販売を開始します。初年度 20 システムの販売を見込んでいます。

近年、企業では、請求データの 2 重送信をはじめ、受注締時間までにデータ受信ができず、結果的に納品が遅れるといった EDI 業務に関するトラブルが報告されています。こうしたトラブルは、企業としての信用の低下、コスト増大、販売の機会損失などにつながることから、EDI システムの運用管理を強化しリスクの低減を図りたい、というニーズが高まっています。

「VIGIE」は、EDI ソフトウェアのデファクトスタンダード製品といえる株式会社データ・アプリケーションの「ACMS」に対応した運用監視ツールです。YDC は、ACMS を活用した数多くのソリューションを提供してきました。「VIGIE」は、豊富な導入・サポート実績をもとに開発したものです。

「VIGIE」は、EDI の運用に欠かすことのできない日常業務監視や、障害監視などの機能に加え、予防保全やレポート機能をサポートしました。「VIGIE」を活用することで、トラブル予防による顧客満足度向上や、回線・運用コストの削減、事業継続性向上につながります。価格は買取タイプ（120 万円～）と月額利用料タイプがあります。YDC では今後、直接販売だけでなく代理店経由での販売も積極的に行っていく方針です。

■ VIGIE の主な特長

・ 日常業務モニター

EDI システムを「通信」や「処理」という観点ではなく、「業務」という観点で監視・可視化。監視項目が予定時刻に実行されてない場合、アラームを発します。

・ 運用実績レポート

回線の時間ごとの使用状況や、エラーコードごとの件数をグラフ化。エラー状況レポートでは CSV 出力機能により、任意項目での集計・分析が行えます。

・ 予防保全

トランザクション滞留チェックやファイル 2 重送信の防止など、障害の兆しを示す動きを監視。また、一定期間使用されていないファイル定義を抽出し可視化します。

・ **障害監視**

稼働ログや通信機器への PING 応答、サービス/デーモンのプロセス、ポートなどを監視し、障害を検知します。

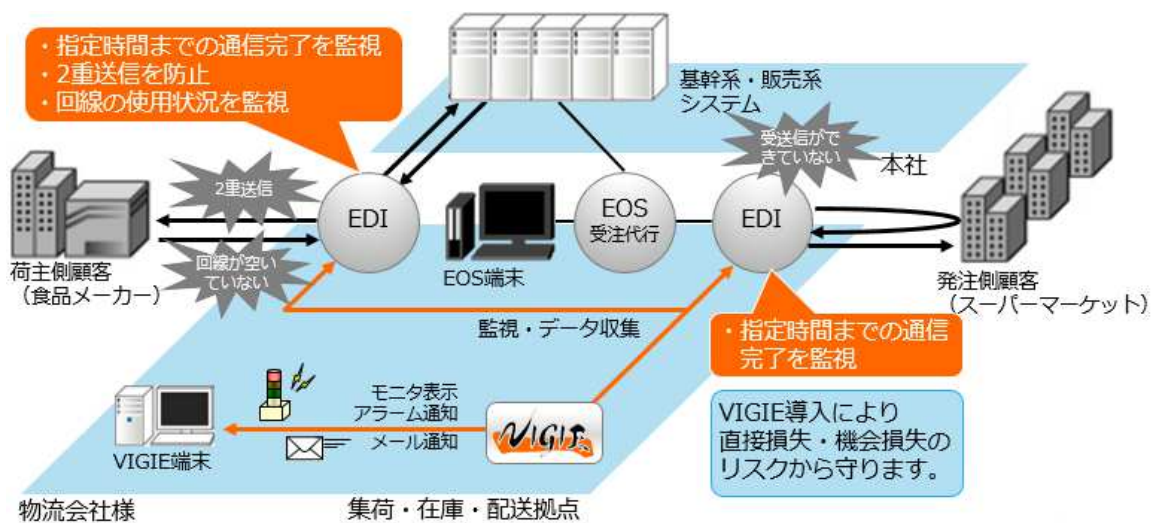
・ **バックアップ/ディザスタリカバリ (DR)**

定義情報のみの簡易バックアップからフルバックアップ(オンライン/オフライン)まで、要件に合わせたバックアップや DR サイトの構築に不可欠な機能を提供します。

※VIGIE の詳細については下記 Web サイトをご覧ください。

<https://www.ydc.co.jp/service/soa/vigie.html>

図 物流会社での運用例



■ **株式会社ワイ・ディ・シーについて**

YDC は 1972 年創立のシステムインテグレータです。横河電機グループの IT 専門企業として、会計や生産管理などの基幹系業務システム、SOA 基盤構築のための企業間、企業内データ・業務連携サービス、製造業に特化した品質解析や電気系 CAD などのシステムソリューション事業で豊富な実績があります。YDC に関するより詳しい情報は、<http://www.ydc.co.jp/> をご覧ください。

<本ソリューションに関するお客様からのお問い合わせ先>

株式会社ワイ・ディ・シー SOA ソリューション事業本部 SOA 営業部
TEL:042-333-6217 E-mail:advocacy-sales@ydc.co.jp

<本発表に関する報道関係者様からのお問い合わせ先>

株式会社ワイ・ディ・シー 経営企画本部マーケティング室
TEL:042-352-6111 E-mail:sc_ydc_gr@ydc.co.jp

※ACMS は、株式会社データ・アプリケーションの登録商標です。また本リリースに掲載中の社名、製品名は各社の商標、もしくは登録商標です。